

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02958

研究課題名（和文）CLILを活用した小学校英語教育の海外教育実践指導カリキュラム開発

研究課題名（英文）Curriculum development of overseas teaching practice instruction for elementary school English education using CLIL

研究代表者

Ryan Anthony (Ryan, Anthony)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30345938

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2020年度から本格実施となる「グローバル化に対応した小学校外国語（英語）教育のあり方」として、小学校教育の特質を活かし、CLIL（Content and Language Integrated Learning = 教科学習と英語の語学学習を統合した）を活用して、各々の専門分野と国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員の英語指導力を育成するプログラムを開発し、その効果を検証した。また、初等教育課程の学生達の専門を活かし、教科横断的指導の授業づくりをアクティブラーニングで行ったことで「高度な実践力を有する教員養成」の在り方についても実証することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文部科学省の「グローバル化時代の英語教育改革」を踏まえて、本研究では、(1)外国語（英語）はグローバル化時代のコミュニケーションの手段であることの認識、(2)小学校教員の専門分野と国際的な視野における言語や文化の指導、(3)小学校教員志望の学生に対しても「専門性を活かした英語教育指導」「教員養成大学におけるグローバル化の在り方」としてのモデルを示す等、「外国語（英語）教育のカリキュラム開発」として提示することができた。

研究成果の概要（英文）：From fiscal 2020, “elementary school foreign language (English) education in response to globalization” was fully implemented in Japanese schools.

In preparation for this change in education, this research investigated the features of elementary school education and co-opted CLIL (Content and Language Integrated Learning) in order to assist elementary school teachers to develop their specialties and adopt international perspectives when teaching. We developed programs to enhance the English teaching abilities of elementary school teachers through interweaving language and culture education, and verified the effects. In addition, while taking into account the various fields of study the trainees-teachers in elementary school education curriculum, we could demonstrate effective active learning modes and methods for “training teachers with high practical skills” to create classes lessons for cross-curricular instruction.

研究分野：英語教育

キーワード：CLIL 小学校外国語教育 次期学習指導要領 指導力育成 グローバル化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

CLIL (Content and Language Integrated Learning) は 1990 年代に EU の言語政策の中で広まり、最近では世界中で注目されている外国語教育の指導法の一つである (Coyle, Hood & Marsh 2010)。この指導法は「内容言語統合型学習」と呼ばれ、非母語で教科の授業を行なうことにより、「教科内容知識」「語学力」「思考力」「コミュニケーション力」「異文化理解力」を統合して育成するアプローチであると言われている。なお、本研究では非母語 = 英語、ただし、オーストラリアでは日本語とする。

「グローバル化時代の英語教育改革」では、英語コミュニケーション能力、及び、指導力の向上が求められている。小学校においては、高学年での英語教育の教科化に伴う指導内容の高度化、中学年での英語教育(活動型)の開始に伴い、中学年の学級担任も外国語活動の指導を行なう必要が生じる。そのため指導体制の大幅な強化が不可欠とされており、現職教員の研修や、高度な英語力と指導法を身に着けた教員の養成が喫緊の課題となっている(文部科学省 2013)。一方、新学習指導要領では「指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導効果を高めるようにすること」と言及されており(文部科学省 2008)、他教科と連携した指導が効果的であることが示唆されている。しかしながら、現在、公立小学校では他教科を英語で指導していることも、英語教育のカリキュラムに CLIL を取り入れた実践を行っているところも少ない。

韓国・中国では、英語が「教科」として小学校 3 年生から導入されており、環境問題や音楽、家庭科等の内容に連携した教科書や授業内容等、日本の小学校に示唆できること(高橋・柳 2012、2013、2014、2015)。また、「シンガポール日本人学校」では、イマージョンプログラムとして、体育や音楽、図画工作等の授業を英語話者が指導していることから、他教科に連携した英語教育の効果として、児童が英語に触れる機会が増えること、教科としての「内容理解」と英語コミュニケーション能力を育成するための「英語学習」の相乗効果があることが認識できること(高橋・柳 2010)等を挙げた。しかしながら、全教科を学級担任が指導している日本の公立小学校教員の特質を活かした指導として、他教科と連携した内容についての実践的な研究、とりわけ、初等教育教員養成としての指導内容に関するプログラムの構築はなされていない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、海外教育実習、及び、CLIL を活用して、各々の専門分野と国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員の英語指導力を育成するプログラムを開発し、その効果を検証することである。本研究において小学校英語の指導力育成のプログラムを開発することは、文科省の「グローバル化時代の英語教育改革」の目的である「小学校の英語教育の指導力向上」となる。更に、小学校教員志望の大学生への「専門分野を活かした英語教育指導」及び「教員養成大学におけるグローバル化のあり方」の一つのモデルを示すことができることである。

愛知教育大学特別運営費交付金特別経費プロジェクト「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」(2010~2013 年度)の中で、2012 年度からライオンを中心に、大学と海外の学校現場の連携による「海外教育実習」を実施してきた。また、この研究を踏襲したプロジェクトである「グローバル化に対応した教員養成 - 海外教育実習プログラム」研究(ライオン・高橋・ロビンズ他:2012 年度~2015 年度)と、「グローバル人材育成を主軸とした教員養成等プログラムの開発」(ライオン・高橋・ロビンズ他:2014~2015 年度)でも、同様の「海外教育実習」を

実施してきた。これらの成果として、学生たちがグローバルな視点が持てたことや英語コミュニケーション能力と指導力の向上が顕著に表れたことを明らかにした（高橋・ライアン他 2014）。しかしながら、これまでの研究対象は中高の英語教員免許取得予定者であった。以上のことから、グローバル化に対応した小学校英語教育の指導力育成として、小学校教育の特質を活かし、CLILを活用して、各々の専門分野と国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員の英語指導力を育成するプログラムを開発し、その効果を検証することが必要であると、研究を行なうこととした。そして、大学教育研究重点配分経費「小学校英語教育における教員の専門知識を CLIL に活用する」パイロットスタディ（ライアン代表 2015 年度）の成果を基にして、英語専攻のみならず他教科専攻の初等教育課程の学生を対象に、各々の専門分野とグローバルな視点から小学校英語の指導力を育成する教員養成プログラムを構築する研究を行ない、グローバル化に対応した小学校英語教育の指導力育成として、小学校教育の特質を活かし、CLILを活用して、各々の専門分野と国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員の英語指導力を育成するプログラムを開発し、その効果を検証することが必要であると、本研究を行なうこととした。

### 3．研究の方法

本研究の特色は、グローバル化に対応した小学校英語教育のあり方として、CLIL を活用し、英語教育専攻以外の他教科専攻の学生にも、英語コミュニケーション能力の向上や英語指導力の育成ができるプログラムを開発することである。図 1 は具体的な研究方法を示した図である。グローバル化時代の小学校英語教育教員養成プログラムとして、以下の 3 つの方法で行なった。

#### (1)CLIL の活用

CLIL を活用した教員養成プログラムのために、英語以外の教科教育担当の研究分担者及び協力者と、英語科教育担当、及び、ネイティブの研究代表・分担者が連携して、日本の小学校英語教育において CLIL を導入した効果的な指導について検討した。はじめに、CLIL に対する研究や、他教科の知識、及び、英語で指導すること等における文献研究、及び、各教科の専門家と英語教師との面談等による情報収集、及び、CLIL の専門家との面談や講演等を拝聴して情報収集を行なった。また、CLIL を実践しているヨーロッパ諸国やオーストラリア、UAE、香港、シンガポール等において調査・事例研究を行なった。とりわけ、香港教育大学及び大学附属の小中学校やオーストラリアの小中学校をはじめとする海外及び国内の CLIL を実践している授業を参観し、他教科の授業をどのように活用すれば「統合」した英語教育として可能となるか、日本の外国語教育に応用できるか、等について探った。

#### (2)海外教育実習

海外教育実習プログラムを実施することで、英語教育専攻以外の他教科専攻の学生にも、英語コミュニケーション能力の向上や英語指導力の育成が期待できると考え、また、各々の専門分野や実践指導力の育成、国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員を育成するために音楽、体育、美術、家庭科の初等教育課程の学生を対象に、オーストラリアの現地の小中高等学校で教育実習を実施した。

海外教育実習の事前指導として、学生達に CLIL を取り入れた授業やパワーポイント等の教材作成を行ない、その後、現地で日本語教育や英語教育の ALT として CLIL を取り入れた授業を行なうための指導を行なった。実習中は、オーストラリアの教育現場において、教育実習風景をデジタルで記録し、それを実習生と教員がシェア - できる Swivl 機器を活用して合評会を行なった。さらに、学生のプレゼンテーションの時に、パワーポイント等を作成し児童や生徒が興味を

持てるような工夫など、ICTを使用した効果的な指導法についての研究も併せて行なった。事後指導では、CLILの有効性について検討した。なお、海外実習の研究は継続的に毎年行なう予定であったが、学長の命令によりこの企画は実現できなくなったため、日本での事例研究、附属小学校との連携した研究、及び、教育実習のみで教育実習を実施し、海外教育実習については、研究者が参観した授業を学生達が見て学ぶ授業へと代えざるを得なかった。

### (3)指導力育成

学習指導要領に基づいた小学校外国語活動・外国語教育の目標に加えて、「児童の認知発達」に焦点を当てた活動を取り入れた活動のあり方と年間カリキュラムの開発についても検討した。効果的な指導のためには、カリキュラムマネジメントの知見も重要であるため、「CLILを活用した小学校英語教育の教員養成プログラム」について、カリキュラムデザイン・マネジメントの視点からも分析し、効果的な小学校外国語教育の指導についての検討を行なった。

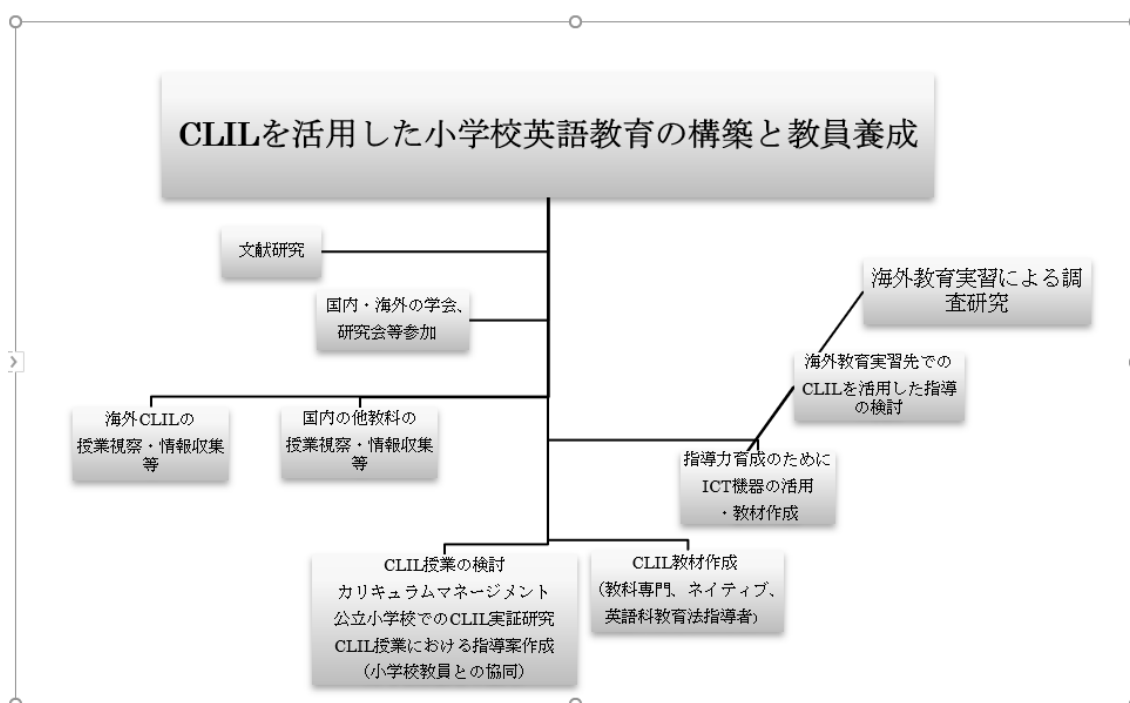


図1：具体的な研究方法について

## 4. 研究成果

本研究は、2020年度から本格実施となる「グローバル化に対応した小学校外国語（英語）教育のあり方」として、小学校教育の特質を活かし、CLILを活用して、各々の専門分野と国際的な視野で言語や文化の教育を指導することができる小学校教員の英語指導力を育成するプログラムを開発し、その効果を検証することであった。すなわち、英語専攻以外の初等教育課程の学生が、彼らの専門分野を活かして、自信を持って小学校で外国語（英語）指導ができるように、CLILを活用した外国語（英語）教育を提案し、学生の英語コミュニケーション能力と実践指導力を育成するための授業づくりについて、「効果的なCLILを活用した小学校英語の授業」を提案することであった。具体的には、教員養成大学の学生達が、実際にCLILを活用して指導するための指導法について教授し、これを踏まえて彼らが指導するための、日本の公立小学校で指導するための「CLILを活用した外国語活動・教育のカリキュラム」を試作した。そして、

附属名古屋小学校の6年生にCLILを活用した体育授業(2コマ)と、算数授業(1コマ)を実践し、実証研究を行なった。さらに、これらを踏まえて、学生が主体で作成したCLIL理科授業の模擬授業も実施した。

研究成果としては、CLILを活用した外国語学習の文献研究や海外・国内調査を踏まえて、教育実習プログラムの実施、小学校英語の指導力育成のプログラムを開発し、その成果として、Ryan, A.G. & Nagamine, T. (2017). 'A Proposal for a CLIL-oriented Period for Integrated Studies in Elementary Schools in Japan'. *Studies in Foreign Languages & Literature*. Aichi University of Education. pp. 77 - 95. や、高橋美由紀&鈴木一成(2018)「ICTを活用したアクティブ・ラーニングによる授業実践の研究 - 小学校英語における科目的横断型学習を活用して」『日本教育大学協会研究年報』36. pp256-266.をはじめとする様々な国内・国際学会での発表や講演などを行なった。また、教員養成だけでなく、中学校の二種免許更新講習においても、Anthony, R (2017, 2018, 2019)「Using CLIL to Improve and Pedagogical skills (Content theme : Festival) 等が、小学校の教員で英語免許取得を目指している先生に対しても授業を行なった。そして、本研究成果の一部として、『CLIL in Diverse Contexts 次期学習指導要領とCLILを活用した英語の授業づくり』を出版した。(愛知教育大学リポジトリに公表 2020/3/31)

[https://aue.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=970&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=21](https://aue.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=970&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&page_id=13&block_id=21)

さらに、研究過程で、学生の主体性を高める教育として、教科横断的指導の具体的な内容の授業づくりをアクティブラーニングで行なったことにより、この指導法が「高度な実践力を有する教員養成」に対しても効果があることを実証することができた。さらにまた、「CLIL investigation」を授業で講義するのみならず、「シンガポール日本人学校」でのCLILとイマージョン教育に対するアドバイスや現職教員研修として「to improve language and pedagogical skills (Content theme: Festivals)の内容で講義を行なったり、日本国内だけでなく、オーストラリアメルボルン州の小学校で「オーストラリアにおけるCLILの授業の創造 - 教育実習指導を通して」(ライアン:2017)や、ロシア国立カザン大学、及び、ニジニーノヴゴロド言語大学等で、「CLILの視点から日本の伝統文化について」(高橋:2016, 2017, 2018, 2019)等、英語で講義を行ない、本研究の成果の一部として発表することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Anthony RYAN	4. 巻 52
2. 論文標題 Lessons from Hong Kong English education: HOTS-integrated language learning.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Foreign Languages & Literature. Aichi University of Education.	6. 最初と最後の頁 115-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Anthony RYAN & SUGIURA Masayoshi	4. 巻 48
2. 論文標題 A discourse error analysis of English writing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bulletin of The Faculty of Letters of Aichi Gakuin University	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Anthony RYAN	4. 巻 1
2. 論文標題 Reflections and thoughts generated by the J-CLIL Seminar University of Stirling	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL), Special issue Proceedings from the J-CLIL TE Seminar at the University of Stirling, Scotland, the UK, 20 to 24 August, 2018	6. 最初と最後の頁 119-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Anthony Robins & Nagamine Takayuki	4. 巻 52
2. 論文標題 How inbound international students can help shape the classroom environment through successful interaction with Japanese students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Foreign Languages & Literature. Aichi University of Education.	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳善和・高橋美由紀	4. 巻 48
2. 論文標題 オーストラリアの初等・中等教育における外国語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部地区英語教育 学会紀要	6. 最初と最後の頁 221-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 425
2. 論文標題 シンガポール日本人学校と英語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本在外企業協会 グローバル経営	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 2
2. 論文標題 国際理解のために必要なコンピテンシーの育成 「グローバルな子ども達の未来を創る - 進みはじめた小学校英語」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度広島ESDコンソシアム事業報告書	6. 最初と最後の頁 138 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、柳善和	4. 巻 47
2. 論文標題 CLILを活用した「読むこと」の指導ー絵本教材を活用してー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、鈴木一成	4. 巻 36
2. 論文標題 ICTを活用したアクティブ・ラーニングによる授業実践の研究ー小学校英語における科目的横断型学習を活用して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育大学協会研究年報	6. 最初と最後の頁 259-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、大野直子、松田孝	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 ICTを活用した小学校英語教育ースカイプを使用した事例研究を基にー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告、人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://hdl.handle.net/10424/00007550">http://hdl.handle.net/10424/00007550</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryan, A.G. & Nagamine, T.	4. 巻 50
2. 論文標題 A Proposal for a CLIL-oriented Period for Integrated Studies in Elementary Schools in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Studies in Foreign Languages & Literature	6. 最初と最後の頁 77 - 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・柳善和	4. 巻 46
2. 論文標題 小学校・中学校における英語による教科指導 の実践 シンガポール日本人学校における事例研究を基にして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中部地区英 語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 185-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 柳善和	4. 巻 28, no.1
2. 論文標題 外国語教育におけるICT利活用の現状とこれからの展望	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集(言語・文化篇)	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 第2集
2. 論文標題 小学校英語の教材開発	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教科学を創る	6. 最初と最後の頁 164~175
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件(うち招待講演 12件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Anthony RYAN
2. 発表標題 CLIL in Japanese Elementary Schools
3. 学会等名 第5回CLILとアクティブラーニング研究会.(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Anthony RYAN
2. 発表標題 Elementary School English Education
3. 学会等名 2019年度愛知教育大学小中英語教育研修会.(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Anthony RYAN
2. 発表標題 Elementary School English Education, CLIL and Cognition
3. 学会等名 全国語学教育学会 (JALT) .
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Anthony RYAN
2. 発表標題 Elementary School English Education, CLIL and Cognition
3. 学会等名 第8回J-CLIL研究発表会 東洋英和女学院大学大学院 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Anthony RYAN & Anthony Robins
2. 発表標題 Teacher Trainees and Overseas Teaching Practice in Australia
3. 学会等名 2018 ROC-TEFL Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 James Venema
2. 発表標題 Maximizing English in the EFL Classroom
3. 学会等名 National Changhua University of Education
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Anthony Robins
2. 発表標題 Helping International Students to Bring the World into the Language Classroom
3. 学会等名 2018 ROC-TEFL Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Anthony Robins & Hankin Elick, Nagamine Takayuki.
2. 発表標題 Bringing the Festive Spirit to a Teacher Training Weekend
3. 学会等名 JALT Toyohashi Chapter
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Anthony Robins
2. 発表標題 異文化理解C
3. 学会等名 中学校教諭二種免許状(外国語(英語))(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀・山内優佳・柳善和
2. 発表標題 児童の主体的な学びを促す文字指導とその評価 文部科学省配布教材及び児童用の英語辞書を活用した調査から
3. 学会等名 第39回JASTCE 全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校外国語（英語）教育における授業づくり - デジタル教材を活用して
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 第58回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 世界を感じながら英語を学ぶ子ども達でいっぱい！
3. 学会等名 公文教育研究会 那覇事務局研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 国際理解のために必要なコンピテンシーの育成 「グローバルな子ども達の未来を創る - 進みはじめた小学校英語」
3. 学会等名 2018年度広島ESDコンソシアム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 外国語教育へ繋げる外国語活動の文字指導： Developing phonological awarenessに焦点をあてて
3. 学会等名 外国語教育メディア学会（LET）第91回 中部支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 人間性を育むための外国語活動・教育のあり方
3. 学会等名 愛知県豊田市立東保見小学校研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 韓国の事例から日本の英語教育を考える
3. 学会等名 KOTRA（大韓貿易投資振興公社）東京貿易館研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 日本の言語文化と英語教育
3. 学会等名 ロシア ニジニノブゴルド言語大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 ロシアの小学校英語教育 低学年からの教育と文字指導
3. 学会等名 第44回全国英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳善和、高橋美由紀
2. 発表標題 小学校3年生の英語能力及び英語学習の実態に関する研究
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀、柳善和
2. 発表標題 CLILを活用した「読むこと」の指導－絵本教材を活用して
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Anthony Robins
2. 発表標題 Using CLIL to Improve Language and Pedagogical skills (Content theme: Festivals).
3. 学会等名 中学校二種免許更新講習（異文化理解講座）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryan Anthony
2. 発表標題 ATP2017 オーストラリアにおけるCLILの授業の創造－教育実習指導を通して
3. 学会等名 オーストラリアメルボルン州（州内の小学校）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryan Anthony
2. 発表標題 CLILの授業実践（6年生の体育の授業、算数の授業）
3. 学会等名 附属名古屋小学校
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの時代に求められる小学校英語科教育と協働的な学び
3. 学会等名 文部科学省 コネスコ活動費補助金 グローバル人材の育成に向けたESD研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyuki Takahashi
2. 発表標題 The traditional symbols of Japan (colors, numbers, flowers, animals), superstitions and traditional customs
3. 学会等名 Kazan Federal University, Institute of International Relations, History and Oriental Studies（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀・柳善和
2. 発表標題 英語で発信できる能力育成について ICT機器を 活用して
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第37回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柳善和・高橋美由紀
2. 発表標題 小学校・中学校における英語による教科指導の実 践 シンガポール日本人学校における事例研究を基にして
3. 学会等名 第46回中部地区英 語教育学会三重大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takahashi, Miyuki. & Yanagi, Yoshikazu
2. 発表標題 Comparison of Chinese and Japanese English Education for Primary Schools: Focus on Reading and Writing.
3. 学会等名 Takahashi, Miyuki. & Yanagi, Yoshikazu ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石川恭・倉本哲男・野地恒有・稲葉みどり・高橋美由紀・古田真司・筒井清次郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 愛知教育大学出版会	5. 総ページ数 134
3. 書名 教科開発学を創る - 愛知教育大学大学院共同教科開発学専攻編	

1. 著者名 梶田叡一・鎌田首治朗・金澤孝夫・湯峯裕・金山憲正・菅井啓之・西村紗貴・岡本祐佳・中村哲・飯田真人・山口聖代・高橋美由紀・中村浩也・安部秀高	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子出版	5. 総ページ数 198
3. 書名 人間性の涵養 新学習指導要領の究極的な目標は	



1. 著者名 愛知教育大学大学院共同教科開発学専攻編（高橋美由紀、石川恭、倉本哲男、野地恒有、稲葉みどり、古田真司、筒井清次郎）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 愛知教育大学出版会	5. 総ページ数 134
3. 書名 教科開発学を創る 第2集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新山王 政和  (Sinzanoh Masakazu)  (10242893)	愛知教育大学・教育学部・教授   (13902)	
研究分担者	高橋 美由紀  (Takahashi Miyuki)  (30301617)	愛知教育大学・教育実践研究科・教授   (13902)	
研究分担者	柳 善和  (Yanagi Yoshikazu)  (40220181)	名古屋学院大学・外国語学部・教授   (33912)	
研究分担者	Anthony Robins  (Anthony Robins)  (80324466)	愛知教育大学・教育学部・教授   (13902)	
研究分担者	Venema James  (Venema James)  (80410695)	愛知教育大学・教育学部・准教授   (13902)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	倉本 哲男  (Kuramoto Tetsuo)		
研究協力者	岡部 純子  (Okabe Jyunko)		